

③ 失明が予想される者への点字指導系列

点字の読みを中心とした指導で点字を1コ1コの点の構成物としてではなく、形態を持ったものとして指導した方が、より効率的でないかとの仮定のもとに、点字の読みの難易(瀬尾政雄「入門期における点字読字能力の発達について」…盲心理研究第14巻P1～P18)と、形態から4段階に分類した。

○難易度1.

あ、め、れ、ふ、う、い、く、に

○難易度2.

(こ、た)、か、(は、ぬ)、お、(さ、よ)ひ、

○難易度3.

(そ、ち)、(せ、み、も、て)、(へ、む)(な、や)、ゆ、(ら、り、ろ、ん、え、る)

○難易度4.

(す、ね)、(き、の)、(と、し)、(け、つ)、(ほ、ま)、わ、を

④ 指導教程

ア、サムホームを使用して形態点字を作成・

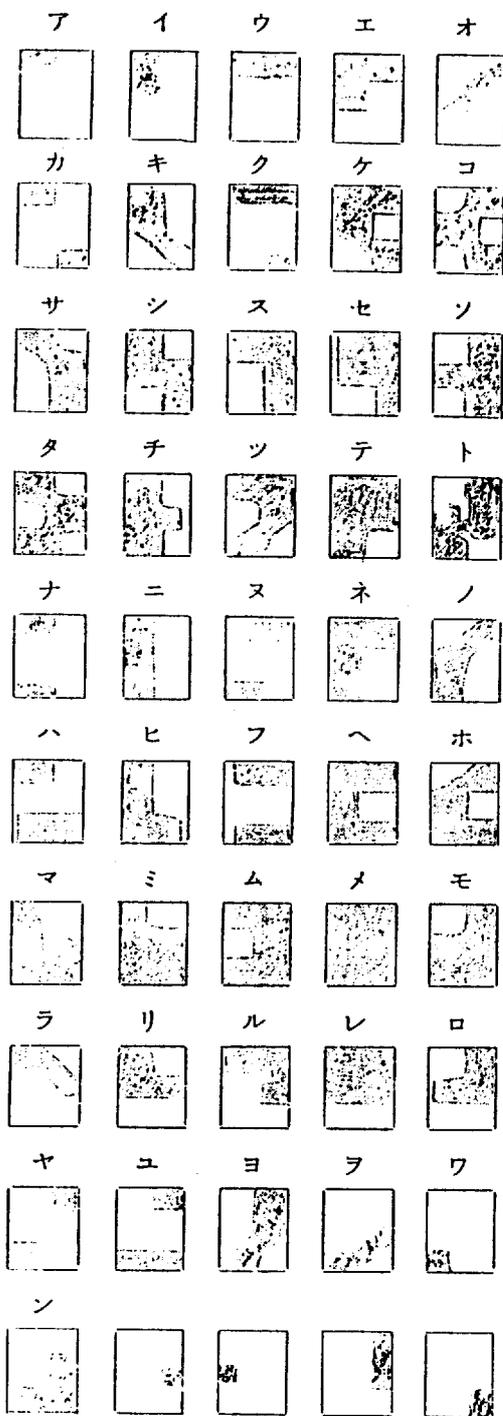
提示

例

あ	□	□
	□	□
め	□	□
	□	□
こ	□	□
	□	□

- イ、難易度別に作成した形態点字の熟語、短文の読み(書きは、読んだ字をパーキンス、プレーラーで打つと同時に、墨字も書く)
- ウ、教本と同じ文を、プラスチック・シートに打ち、その点字を読む。
- エ、五十音、濁音、半濁音、長音、音、長音、濁音、半濁音の読み
- オ、教符、英字符、特殊発音記号の読み。

○形態点字カード (実物×1.4)



「点字は、600分でマスターできる」

道視研 S49 No.19

札幌盲学校 鈴木重男

1. はじめに

点字は、6点の組み合わせにより一音を為しているが、触読の場合は、6点により組み合わせられたそれぞれ独立した点と点の弁別により読まれるのではなく、6点により構成された形態として読まれるのではないかというのが私の考えである。又、指導の効率を計るためには触読による点字の易から与え始め序々に触読するのに難しい点字を与えたほうがよいのではないかと考え、瀬尾政雄「入門期における点字読学能力の発達について」—盲心理研究第14巻の点字学習初期の習得率をもとにし、さらに形態から点字を下記の難易別4段階に分けた。

- 難易度1 ア、メ、レ、フ、ウ、イ、ク、ニ
- 難易度2 (コ、タ)、カ、(ハ、ヌ)、オ
(サ、ヨ)
- 難易度3 (ソ、チ)、(セ、ミ、モ、テ)
(ヘ、ム)、(ナ、ヤ)、ユ、
(ラ、リ、ロ、ン、エ、ル)
- 難易度4 (ス、ネ)、(キ、ノ)、(ト、
シ)、(ケ、ツ、ユ、ホ)、ワ、
ヲ

この触読難易形態別点字指導により、現在点字を学習している4名は、従来の点字構成的指導方法からみて、効率よく点字の触読学習をすることが出来るようになった。

2. 生徒の実態

氏名	年齢	視力	眼疾	学力	その他
S	13才	02.02	網膜剥離	中	普通校から
C	12才	明暗.03	牛眼(水眼)	中	"
T ₁	13才	001.001	視神経萎縮	中下	"
T ₂	7才	不測	緑内障、斜視?	小1年	

S、C、T₁については、現在墨字による学習をつづけており、いつともしれぬ失明にそなえているのが現状であるが、T₁・T₂については、学級担任とも相談し出来るだけ早い時期に点字による学習に切りかえたいし点字触読力検査で5点以上の得点をあげたものが、点字による学習に適していると考えている。

点字学習時間

氏名

S } S49.430 → S49.629. 1.4 5 5分
C }

T₁ S49.430 → S49.629 1.1 8 5分

T₂ S49.6.7 → S49.628 1 8 0分

T₂については、寄宿舎の室担当寮母及び、養訓担当寮母、舎監の多大な協力がありさらに約150分の寮指導時間を有している。

3. 具体的学習方法

同じ難易度の点字による熟語、短文、既習点字を含めた熟語、短文、さらに長音、濁音、促音を含んだ難易別指導シートを作成し、それを教材に触読の学習をする。同シートを読みこなしたなら熟語、短文の配置をかえた強化シートNo.1~No.nを定着するまで与える。又、テープレコーダーを使用し、全てを吹き込みしこのテ

ープをペーステープという)シートを読み終わ
りしだい、ペーステープを聞いて自己チェック
を行なう事を、難易度1から難易度4までの基
本的学習方法とする。この難易度4の触読が完
了すると書きを含くめた総合的指導さらに触速
度を増す指導に入る。

①難易度1のシート内容

メメ、メア、メレ、メフ、メウ、メイ、メク
メニ、アメ、アレ、アウ、アニ、アク、メイ、
レイ、クレ、ニレ、フレ、ファイ、イレ、イウ
イク、ウク、ウニ、クウ、クニ、ニク、アフ
レ、メクレ、アニニ、イウ、フィニ、アメフ
レ、アニニ、フレ、アクニ、フレ、ニクイ、
アメ、アニ、クニニ、イク、フィニ、メイニ、
アウ、メニ、アフレ、メイレイニ、ウメク、
アニニ、アイ

②難易度2のシート内容

メコ、メタ、メカ、メハ、メヌ、メオ、メサ
、メヨ、メヒ、コーヒー、タコ、タカ、サオ
、サカ、ヨコ、ヌカ、ハコ、ハタ、ハカ、オ
カ、カタ、カオ、ヒメ、ヒフ、コメ、コイ、
タイ、タニ、サイフ、ヨメ、ヌク、ハウ、オ
レ、ニオイ、カメ、カイ、カニ、イカ、イヌ
、ヨク、ニレ、タコ、イカ、カイ、カニ、タ
イ、ヌカニ、コメクレヨ、コクタイニ、イク
オレ、ハカニ、サイフ、オク、タコ タコ
ヨク アガレ、イヌニ ヨク アウヒ ヨイ
ヒ、オオサカ ヨイ クニ、アメニ ヌレタ
ハタ、ヌク ヌク アタタカイ、ヒニ アタ
レ、フグ ヨク フクレ、アブ ブヨニ サ
サレタヒ ヨク カニ ササレ、イヌ アメ
ニ アイ カタ ヨク フル、ヨク クウ
カタイ コメニ ヌカ イレ オッカニ タ

タカレ、タイコ タタク ウタ ウタウ、ア
カイ カオ アオイ カオ、

③難易度3のシート内容

メソ、メチ、メセ、メミ、メモ、メテ、メヘ
、メム、メナ、メヤ、メユ、メラ、メリ、メ
ロ、メン、メエ、メル、ユラリ ユラリ、ソ
ッチエ ムカウ、セミガ ナク、リロンガ
ナイ、チカン、ミソ、モナカ、テムカウ、ム
カヂ、メカミ、カミ、ユミ、ラン、リカ、ロ
ウカ、エンニチ、チカウ、セナカ、モチ、テ
ガミ、ムラ、ヘラ、ナラ、カエル、エンソク
、チソ、ヘンカ、ユカ、カンガエル、カナリ
ヤ、ヤミヤ、モヤモヤ、ナヤミ、イエ、チチ
、コテ、アナ、ミチ、カモメ、モグラ、アラ
レ、ヒレ、レンガ、コンロ、イロリ、ロバ、
ヌリエ、ソリ、アヤメ、ヤオヤ、ユリ、ヨミ
セ、コヨミ、コヨリ、カンナ、ハンテン、

④難易度4のシート内容

メス、メネ、メキ、メノ、メト、メシ、メケ
、メツ、メホ、メマ、メワ、メヲ、キモノ、
キツネ、キジ、キテキ、ケムリ、タケ、バケ
ツ、ケムシ、ツル、トラ、アカイ カキ、ア
オイ カキ、ツエ、コタツ、オトコ、ネズミ
、カキネ、ツノ、キノコ、カニノ ウエタ
カキノ タネ、マリ、マツ、トマト、コメモ
コクモツ マメモ コクモツ、スズメ、マ
ス、タスキ、スシ、ツマ、イノシシ、シカ、
クシ、ホタル、ホトケ、ホサキ、ホネ、フト
イキ ホソイキ、ワニ、ワシ、ワタ、タワラ
、クワ、カワラ、カワ、タワシ、ニワトリ、
ナニヲ トル セミヲ トル、ナニヲ ツル
イワシヲ ツル、キヲ ケズル トキワ
キヲ ツケル、

⑤ 総合的指導

各強化シートを用いて、あるいは短い物語を用いて、書きを含めた指導を行なう。

①シートを読み、ペーステープを作る。

②ペーステープを聞きながらシートを読み、自己チェックする。

③ペーステープを聞きながらパーキンス・ブレーラーを操作する。

光による障害のない児は、光覚式点字発生器(自作)を操作する。

④ペーステープを聞きながら自分の打った点字を自らチェックする。

総合的指導は、上記4つの部分に分かれる。

⑥触速度を増すための指導

サーモフォーム形成の形態点字教本Ⅵ1～Ⅵ4(普通点字を1.4×1.4倍にした形態を厚紙だけで作ったもの)により⑤の方法をとって指導する。

⑦正しい分ち書きの指導、聴写、数字

⑧点図の読みと作成

⑨英点字の指導

⑩数学記号、理科記号の指導

4.結果

①氏名	難4終了時数	S 49.6.29 現在の速度
S	約600分	⑥
C	"	"
T ₁	"	⑤
T ₂		③の導入段階

②点字触読力検査の結果 調査日 6/18

S 得点2 偏差値 53

C 得点1 偏差値 50

T₁ 得点0 ひろい読み、文章をつかめず

③1分間当りの触読字数 調査日 7/4

S > 幼音、濁音、長音、促音も含め

C > 16字/1min

調査に使用した文成社幼年童話全集(Ⅸ P66)上記の結果からしても、又、昨年度指導した中途失明者(18才)の指導をした事からしても一昭和48年度札幌盲学校、養護・訓練実践集 P119~P124 - 普通の子供であれば、日本語点字は、3ヶ月で十分にマスター出来るという結論に達する。

又、S、C、T₁については、7月末に再度、点字触読力検査を行ないそれで5得点以上とった者から⑧、⑨、⑩の指導に入る。T₁については、点字による学習に切りかえる予定である。

以上、雑駁に点字の指導について述べましたがこれにつき大方のご批判をいただければ幸いと感謝する次第です。

◆ 中途失明生徒の普通高校への復学

特殊教育指導事例集 S50頃

【事例の概要】

T男は昭和27年11月生まれで、小学校、中学校、昼間定時制高校と普通の学校に進んだが、昭和47年9月頃から視力の減退を自覚し、昭和48年2月にH大学病院において、多発性硬化症と診断され入院治療を行なったが同年8月、症状が一応落ち着いた事により退院、同年9月に再適応訓練のためにA高校を休学のまま、札幌盲学校に仮在籍の形をとって入学した。

T男の視力は、右-0.01、左一眼前手動弁（昭和48年8月）であった。又学力は、A高校において中位であり、運動能力は、平衡性に多少劣るところがあったが、上位に位置されたT男は、完全失明になるであろう自分の姿を知っていたが、それに耐え現在の自分を何とかしたいという意欲が旺盛であった。その事が本人にも、指導する者にもよい影響となって現われてきた。現在はA高校に復学し、昭和50年3月に卒業の予定であり、その後は高等盲学校の2部専攻科に進む予定である。

【診断と対策】

問題の所在 T男は簡単な漢字とひらがなは書けたが、視的フィードバックが難かしく、文字コミュニケーションは、点字によるしかなかった。又、長い入院生活で体力の劣えが目立っており、身体運動もどこか危なかしげであった。更にいつとは知れぬ失明にそなえ、予備的に眼遮蔽しての歩行、触知覚と手指の運動も指導する必要があった。

指導の過程 指導の過程は下記の如く大きく4つの段階に区別する事が出来る。第1次指導と第2次指導は盲への対処、第3次指導と第4次指導はA高校への復学を目ざしての対処であった。

514-76

〔特例三〕

指導段階	期 間	指 導 内 容
第1次指導	9月初～10月末	①国語点字の習得②歩行訓練③身体運動の再体制化④触知覚と手指の運動
第2次指導	11月初 ^{S49} ～2月中	①点字の触読速度の向上②点字教科書使用の教科学習③手指の巧緻性向上
第3次指導	2月中～3月中	①英点字②日常工具の使用③国語点字の正しい分ち書き④珠算⑤数字記号⑥英文タイプ⑦人生一般についての話し合い
第4次指導	5月末～6月中 (農繁休暇)	①体力運動機能向上②数字、理科記号、英略字③普通文字の読み書き④カナタイプ⑤英文タイプの強化

又、T男の指導にあたってはチームを組み、それぞれの専門を生かした指導をし指導記録を一括収集し、各指導者が自由に閲覧出来る方法をとった。

第1次指導 ①国語点字の習得＝触読難易と点字の形態から点字を4段階に分類し、易点字から難点字への方向に進みながら、それぞれ次の5stepによる方法をとったのである。step1→各段階に作成した点字シートと同じ内容を吹きこんである録音テープを使用し、各点字のイメージ化を促がす。step2→同じシートを読み録音する。step3→自分が録音したものを確かめる。step4→同テープを聞きながら打字する。step5→自分が打字したシートを聞きながらチェックする。尚、間違った所や解らない所はその都度指導した。

②歩行訓練＝9方向音源弁別、音の軌跡、歩行軌跡、歩行図、白杖操作、地区適応、単独帰省の7つの内容を指導した。ただし、単独帰省については、残有視力の活用により行なった。9方向音源弁別→訓練第1回から第3回までの27刺激中誤答13、訓練第8回から第10回までの刺激中誤答3つ、訓練第18回から第20回までの27刺激中誤答1つと、順調な伸びを示した。音の軌跡→9つのスピーカーを用いて音を流がし、9つのポイントで表わせるカタカナを、言いあてる事が出来た。尚、交差点モデル学習においても車の流れと信号の関係を理解できた。歩行軌跡→5本のベルトを組み合せ、20のコース（角度90°、45°、135°）を設定したが全20コースのレーズライター上での表現が出来た。白杖操作→にぎりⅠ.（平地における基本操作）、にぎりⅡ.（階

段昇り、障害物の確認等での操作)の指導を、地区適応の中で指導した。又、歩行図についても地区適応の訓練後、空間構成物を標識化した点図を作らせ指導した結果は、眼遮蔽しても学校近辺の白杖歩行が可能となり、点図は札幌市中央地区、南地区の一部という広い範囲の地図を作成するまでになった。

③身体運動の再体制化=T男が野球部に所属していたので、ボールを使用する運動を主に行った(サッカーのドリブル、キック、シューティング、ソフトボールのピッチング、バッティング、ゴロキャッチング、軟球のピッチング、ノック)が、持久力は劣っていたが機能は、大体前のレベルまで達したようであった。

④触知覚と手指の運動=パドゥーベグボード、スタンフォード・コオ式ブロックデザイン、大脇式知能検査器具を用いたが、パドゥーベグボードは中位、スタンフォード・コオ式、大脇式は良好な結果をおさめた。

第2次指導 ①点字の触読速度の向上=前記、点字の指導step 2～step 5を、短文を用いて指導した。結果としては、点字触読力検査、昭和48年10月20日偏差値46、昭和48年11月29日偏差値66であった。

②点字教科書使用の教科学習=4教科(国、数、理、社)について、中学3年生のクラスで点字教科書を用いて学習した。この事によりブレーラーの打点速度向上、触読速度の向上が促がされたようである。

③手指の巧緻性向上=プラモデルの完成図をサーモフォームで点図化し、組み立てさせたが、大体は理解し組み立てる事が出来たが細部については出来なかった。

第3次指導 ①英点字=国語点字と英点字のマッチングを行ない、次いで中学1年の英語の教科書を教材に指導した。結果は、英語の力が劣っているためか、アルファベットはすらすら読め、書けても単語の意味等については、はかばかしくなかった。

②日常工具の使用=ペンチ、ノコギリ、ドライバー、ハサミ、カナヅチ、の使用を指導した。

- ③国語点字の正しい分ち書き＝日本点字研究会編「国語点字」に基き指導。
- ④珠算＝クランマー式そろばんを用いて、加減乗除の基礎を指導した。
- ⑤数字記号＝浮き出し文字の記号と点字記号の対応を行なって指導した。
- ⑥英文タイプ＝高木式指導方法により、60ストローク位の速さであった。
- ⑦人生一般についての話し合い＝失明について、盲人について、盲人観についての話し合い。

この第3次指導を終了後、昭和49年4月にA高校の4年生に復学したのである。尚、T男が使用した教科書は、札幌盲学校の職員が分担して点訳した点字教科書を使用した。

第4次指導 ①体力、運動機能の向上＝ランニングを主とした。

②数字、理科記号、英略字

③普通文字の読み書き＝ひらがな、カタカナ、小学校1年、2年配当漢字の読みと書き

④カナタイプ＝英文タイプをやっていたのか、この期間中でマスター

⑤英文タイプの強化

結果 A高校における前期テスト結果は、中程度であった。

学習方法は、①点訳教科書の使用、②教科担任が作成した録音テープの使用、③テスト、論文についてはカナタイプライターの使用、④拡大文字、図の使用、の4点になっているが、十分なアフターケアが出来ないために種々の問題も出て来ている。

①数学における持続した計算、式変形、原理の図解

②理科における実験、模型

③体育における、体から離れる道具を用いた教材

④板書、オーバーヘッド等による図、式の説明

ではあるが、A高校の担任が言う如くに「これらの問題点があるにはあるがそれは仕方のない事であって、T男のこれからの生活、又他普通生徒への影響を考えると、引いてもなお余りある事ではないだろうか」と言うのがまとめである。

(鈴木重夫)

514-79

1 個別的点字触読指導法 (昭和56年 盲教育52号)

鈴木重男

1 はじめに

就学前盲幼児 (先天盲あるいは早期失明児) と中途失明児 (者) に対しての点字触読指導の内容、方法に差異はあまりない。それよりも知能的、触知覚的な個々の保有する能力の違いの方が、はるかに大きく指導に影響する。

点字触読指導の原則は、

1. 認知しやすい点字から指導する。(易から難へ)
2. くりかえし、くりかえし継続的に指導をする。(ドリル)
3. 個々人の力に合った指導をする。(個別化)

それでは、触読として認知されやすい点字とはどのような点字であろうか。瀬尾政雄氏は、盲心理研究第14巻「入門期における点字読字能力の発達について」のなかで小学校1年生の各学期毎の触読可能点字の%をあげていた。

読み易い点字は、早い段階で読める点字ではないかと考え、それをもとに4つのグループに分けると点字パターンとして似た点字群が出てきた。そこで昭和47年に下記の4つの点字群に分けて指導を開始した。

難易度1 (一番読みやすい点字群) あ、め、れ、ふ、う、い、に、く

難易度2 こ、た、か、は、ぬ、お、さ、よ、ひ

難易度3 そ、ち、せ、み、も、て、へ、む、な、や、ゆ、ら、り、ろ、ん、え、る

難易度4 す、ね、き、の、と、し、け、つ、ほ、ま、わ、を

しかし、各難易度指導終了後毎に無意味つづりテストを行い調べると、触読しやすいと考えていた点字が触読困難だったり、反対の場合もあり各段階で凸凹が生じてきた。そこで昭和50年にそれまでの指導記録を点検して5段階に分類し直した。

難易度1 あ、め、れ、ふ、う、い、に、く

難易度2 こ、か、お、よ、ひ、ぬ、の、と、な

難易度3 た、さ、し、み、わ、む、ね、も、つ

難易度4 ゆ、す、を、や、は、る、ま、そ、き

難易度5へ、け、ん、ほ、ら、せ、ち、り、ろ、え、て

次ぎに継続的指導であるが、

就学前盲幼児

点字触読指導は、先天・早期失明児あるいは道具として点字を使用した方がよいと判断された幼児には、この段階から指導するべきである。

- ・在宅または、通学している場合は、両親との指導連携をとる。
- ・寄宿舍または施設の場合は、舎監・寮母との指導連携をとる。

児童

- ・その日の点字学習シートと、その内容を吹きこんだテープを用いて個々が自ら学習する。
しかし自学自習が難しい場合は両親・寮母または施設職員に援助を依頼する。継続指導を実施する為に、両親や寮母・施設職員の協力をとりつけることである。

生徒等

- ・点字学習シートとテープにより自学自習する。

いずれの場合も翌日各自が吹き込んだテープをチェックし当日の指導内容を決める。このような作業を毎日繰り返し行うと同時に各難易度段階の終了時点では必ず無意味つづりテストを行い、点字触読状況（定着度、触読動作、誤読傾向）をチェックし、次段階指導の対策を考える。もしどうしても定着しない点字が1～2字ある場合は、その点字を次段階の点字と一緒にくりこむが、パターンの回轉的な誤読傾向だけの場合は（「た」が「こ」等）、それだけを取りあげて弁別的な指導をする。

最後の個別化については、若干ふれたが、次の項で詳しく述べたい。

2 具体的指導方法

難易度1と難易度2を中心に流れにそって記したい。

① 難易度1

あ、め、れ、ふ、う、い、に、く — 大抵の対象児（者）は、1日で終了する程の簡単なパターンである。

- あ \cdot ~ 一つの点
- め \square ~ 縦長の四角（1～6点全部）
- れ \square ~ 小さな四角（小さなかたまり）
- ふ — ~ 間があいている2本の短い横棒（ルール状）
- う — ~ 短い横棒
- い $|$ ~ 短い縦棒
- に $|$ ~ 長い縦棒
- く \cdot ~ 上が短い横棒で下に離れた点

この8字を讀み取られる対象児（者）は、ほとんど上記の点字イメージとのマッチングにより20分～30分以内に触読可能となる。

多少難しい対象児（者）は、点字学習シートに一行毎に

あ、あ、あ、 . . .

め、め、め、 . . .

れ、れ、れ、 . . .

ふ、ふ、ふ、 . . .

う、う、う、 . . .

い、い、い、 . . .

に、に、に、 . . .

く、く、く、 . . .

の点字を打ち、対象児（者）の背後に指導者が回って対象児（者）の左手人差し指を軽くやわらかく操作して、点一つは「あ」「あ」・・・とイメージを与えながら繰り返して指導する。

さらに難しい対象児（者）には、一字一音を暗記するまでドリルするが、この場合の提示点字数を2～3字とする。この指導後、弁別的に指導した2～3字を提示して例えば「あ」「め」「れ」の3字であれば

- ・一点だけのどれ。それはなんという字。
- ・大きなかたまりはどれ。それはなんという字。
- ・小さなかたまりはどれ。それはなんという字。

と聞き確かめる。

この程度の触読状態の対象児（者）でも本人とその両親・保護者の喜びは大きく点字触読を始める強いきっかけを作ることとなる。

これでも難しい対象児（者）については、知的・感覚的に点字学習に入る以前、即ち3、4歳程度より幼い段階にある幼児には、触感的に何等かの問題（大人の場合は重度の糖尿病）をもっと考え基礎的な感覚訓練を施した方がよいであろう。

この難易度1の点字触読のチェックとして

- ・ランダムに配置した8字の提示
- ・8字を使って作った単語・文章による例
- ・単語 あめ、あう、あに、あく、めいれい、ふく、にく、くに、いく、いう、うめ
- ・文章 あめに あう。あに めいに あう。うめ にく あめ くら。
めいれいに うめく あに あう。等

- ・無意味つづりテストによる。

無意味つづりテスト	
昭和 年 月 日	
は、お、る、つ、て、や、さ、ろ、ま、ぬ、そ、し、え、の、	
い、あ、ひ、り、ね、こ、み、と、た、ら、ふ、め、ほ、わ、	
な、ん、よ、け、む、ゆ、す、に、を、ね、せ、う、も、き、	
へ、く、か、ち、だ、び、が、じ、ず、べ、ぐ、ぜ、ど、ば、	
ご、ざ、ぶ、ぎ、づ、で、ぼ、げ、ぞ、ば、び、べ、ぶ、きゃ、	
にゅ、ちよ、	所見

上記3つの方法を行う。

※ 点字板の弊害

点字の構成は、6つの点を小さな空間に配置することにより成り立っている。「き」を例にとると、ローマ字「Ki」点字構成「K対応～6点、i対応～1、2点」、しかし触読パターンでは「し」になる。このように触読では点構成の距離により連続する線となり、かたまりのパターンとなるのである。そうであるから点字板を使用した点字構成を指導すると、点字の持つ独特なパターン触読よりも点構成を確認するための点弁別的触読になる。また、点字板によって書く点字は鏡映文字である。文字指導の初期に鏡映文字を指導する教師がいるであろうか。晴眼の我が子にも鏡映文字で書くよう教えているのだろうか。点字の書きは、表打ち点字器を最初に用いるべきである。

② 難易度2

こ、か、お、よ、ひ、ぬ、の、と、な、イメージ

こ < ~ 左がとがった形(ひらがなの「く」の形)

か . ~ 離れた2つの点で、ななめに配置

お / ~ 左下がりの短い棒

よ) ~ 左指がきもちよく入る形

ひ ⊥ ~ 左下のカギ形

ぬ . ~ . と似ているが . は、下の点が右側。 . は、下の点が左側。

の (~ 下が縦の短い棒で、次いで右上に点が出てくる形右上が曲っている。

と ◊ ~ 真中が厚くひしがた。

な . ~ 2つの点が縦にならんだ形。

この2～3字を、難易度1の点字と合わせて提出する。

例 「こ」「か」「お」の3字を指導する場合

- ・イメージとパターンを学習する点字シートで学習する。
- ・難易度1の点字と「こ」「か」「お」の3字を組み合わせた単語、無意味の2字つづり・短文シートで学習する。

単語 こめ、これ、こい、あか、かめ、かれい、かい、かに、かく、かう、あお、おれ、おに、おい、おく、におい、うお、おれい、かこい、等

短文 あめお かう。

※ この段階では、触読字の指導と考え助詞の「を」を使わず、「お」を使っておく。

いか かに かれい こめお かう。あかおに あおおにに あう。あに めい おいに あう。・・・

無意味の2字つづり

あか、めか、れか、ふか、うか、いか、にか、くか、あお、めお、れお、ふお、・・・

上記のような点字学習シートと同じ内容のテープを用意して何回もドリルさせた後、その指導時間の定着度を提出11文字のランダムな提示、任意の単語、短文によりチェックする。もし指導時間が、始業時、昼休み、放課後であればそのシートとテープを自宅・寄宿舎・施設に持ち帰らせて、そのシート内容をテープに対象児(者)自ら吹き込ませそれを翌日チェックする。

※ 在宅対象児(者)の場合

保護者あるいは援助者を得られる場合は、方法、内容を熟知してもらい面接指導の回数(週1回、週2回)によって、その対象児(者)の力に合わせた点字学習シートと対応するテープと定着度をチェックするシートを用意して依頼する。その結果の処理は、電話で行うが不可能な場合は、面接指導のその場で指導者がチェックしてその場で学習教材を作成する。

病院に入院しているなどで自学自習している対象者の場合は、医者・カウンセラーと相談した上で無理のない内容で指導を進める。この場合、テープに出来るだけ詳しく吹き込んだものを用いる。

定着度をチェックして

- ・「こ」「か」「お」が読めていれば次の「よ」「ひ」「ぬ」・・・の2字～3字を次回の指導内容として11字に合わせた点字学習シートとテープを用意する。
- ・1字あるいは2字が定着していないと判断した場合は、その字と次の「よ」「ひ」「ぬ」・・・の1字～2字だけを中心とした点字学習シートとテープを用意して定着化をはかる。
- ・「こ」「か」「お」の全てが読めない場合は、難易度1の8点字を再度チェックしてその8点字が定着していれば「こ」だけを難易度1の8点字に合わせた点字学習シートとテープにより「こ」の定着をはかる。

上記の指導を繰り返し「な」まで終了したなら、17文字をランダムに配置したシート、17文字を使った単語・短文シート、無意味つづりテストで触読状態をチェックする。

③ 難易度 3・4・5

難易度 1、2 を比較的簡単に終了した対象児（者）もこの段階から進度が遅くなる傾向がある。

その原因と考えられるのは

- ・ 点字の数。（記憶量）
- ・ パターンが回転した点字が多くなる。

難易度 2 までも

(く^ー、ぬ^ー)(よ^ノ、の^ノ)(か[・]、な[・])とあったが、

難易度 3 ではさらに、

(こ[<]、た[>])(と[◇]、し[◇])(あ[・]、わ[・])(ひ[┌]、ね[┐])(よ^ノ、の^ノ、さ^ノ)と出てくる。

しかし、②難易度 2 に記したような方法で難易度 3、4、5 と進める。

④ 長音、濁音、半濁音、促音、拗音、拗濁音、拗半濁音、特殊音、数字の指導。

墨字を知っている対象児（者）と知らない対象児（者）で方法を異にする。墨字を知っている対象児（者）には、主に前置される点配置と墨字で後置される符号や小文字と対応指導できるが、知らない幼児においては、文字と音とのマッチング指導が必要な場合もある。

ここで使用する点字学習シートは、単語・短文を中心に構成する。「むぎ書房 にっぽんご 1」を使用するとそのままの形で利用することができる。この指導でも点字学習シートと対応するテープを作成し繰り返しドリルする。

⑤ 触読速度向上訓練

④の指導でも文章を用いるが、ここまでの指導で触読速度(小学校低学年程度以下の読み物)が毎分20~30字以内の場合が多い。そこでこの訓練での目標を一応40字~60字毎分におく。その方法としては、

- ・ 幼児等の点字学習に対する時間的耐久性が低い対象者向け。

普通の点字紙に童話(200字~300字程度)や文を1枚(長ければ2枚に分けて)に打ち、それをシートとして対応するテープと共に学習する。1日1枚のシートで繰り返しドリルする(大体2回~3回)。テープに吹き込む場合の注意は、④でもそうであるが、マスからマスあけまでをひと続きに読み逐語読みは、けっしてしないことである。対象者(児)の触読動作、姿勢を常にチェックして両手読み、正しい美しい姿勢で読むよう注意する。指導者のテープでドリルした後対象者(児)自らでテープに吹き込ませる。指導者はその読み始めから読み終わりまでの時間を測定してそのシートの字数を数えておき毎分速度を記録して対象者(児)に常に知らせるが、この触読速度は仮りの速度であるのでその旨も記録しておく。この指導を約1週間行い文章読みに慣らした後本指導に入る。本指導では、対

象者（児）自らが最初から直接テープに吹き込み、指導者は毎分触読字数を記録して常に励みを与える。次に自らが吹き込んだテープをヘッドホン（点字と自ら自身に集中させるため）で聞かせ自己チェックさせる。この指導を繰り返す。

- ・ 点字学習の時間的耐久性がある者（児）点字紙2枚大の大きさの点字用紙を用意して時間的耐久性の低い者（児）と同じ方法で指導する。時間的耐久性の低い者（児）も耐久性が高まるにつれこの大きさの点字紙に切り換える。教材としては「学研 1年（2年）の漢字学習ノート」が字数500～600字程度なので大体この点字紙1枚におさまる。指導者は、機械的な行為にのみ専念せず、対象者（児）へ愛情を注ぎ込み常に励ましを与えさらに高い触読速度を得られるよう援助をする。この他保護者・担任・寮母等その対象者（児）を取りまく人達に常に情報を与え回りからの援助をもお願いする。

⑥ 書きの指導

点字の書きについては前記したが、表打ち点字器のみを使用することである。しかし点字板のよさもある。それは携帯性（いつでも、どこでも）、入手のしやすさ（価格面、量）の2点がある。しかし、学習場面が設定されている対象者（児）がほとんどであるので携帯性についての問題はあまりない。入手方法についても学校の生徒については各市町村において補助を得られる。先天・早期失明児の算数計算力の低さと作文ぎらいは、点字板のフィードバック性能の影響であると私は考える。

点字板使用は、触読が定着した段階で指導すべきだし非常に簡単な指導である。その方法は、点字構成を点で指導しパターンを鏡映させ、テープでドリルするが、小学校低学年で指導すべきでないし指導する必要性もない。野外学習等で記録が必要な場合は、テープを利用し帰ってからタイピングすればすむことである。

書き指導の方法であるが、触読指導の初期から入手していれば触読指導の一環として導入すべきである。

- ・ 点字学習シートを指導者のテープでドリルした後自らがテープに吹き込む。（ベーステープの作成）
- ・ ベーステープを聞きながらシートを自己チェックする。
- ・ ベーステープを聞きながらタイピングする。
- ・ ベーステープを聞きながら自らがタイピングしたシートを自己チェックする。

この4つの内容を1サイクルとして繰り返す。

※ タイピング指導

タイピングされる点と対応するキー配置（このキーは1点、2点等）は、絶対に指導しない。「あ」は、ここ。「め」は、ここ。指だけのキーパターンとして初期は指導する。④の段階からキー配置を指導する。

指の分担だけは、はっきりと強く指導し、指導者はタイピングの際常にチェックする。誤った指の分担を指が覚えてしまうと後々タイピング時間のロスが出たり誤字タイピングの原因となったりして修正が困難となる。もし指の分担が不安定な場合は、2点と4点のキーにフェルトをはるかU字型の中指固定のものをキーにはり定着させる。

この書きの指導は、遅くとも④の段階までに導入する。導入初期は、タイピング速度は触読速度よりも遅いがすぐに追いつく。

3 おわりに

点字触読指導の本方法による時間的めどは5段階難易度の清音指導が1～3ヶ月、前置後置される符号指導が2ヶ月目～6ヶ月目、小学校低学年程度の触読速度が40字～60字指導が3ヶ月目～12ヶ月目であるが、対象者（児）各個人の保有する個性によりかなりの差がある。触読指導に限らず視覚障害者（児）への指導は、愛情と根気と努力しかないのではないだろうか。この心による指導により対象者（児）の体の中に自然と指導者が入り込み、その指導効果を増幅させる。

本稿で私は点字板への憎悪を剝出しにしたが、視覚障害者（児）を援助する私達はまず自らが狭い6点の点字板的発想や点字板そのものを捨てざるべきでないかと常に思っている。

本指導の発想を12年前に与えて下さった日本ライトハウス 関 宏之氏 前熊本盲学校
河津 巖氏 長崎盲学校 河津 紘氏に深く感謝する。

なお、諸先輩諸先生が未熟な本稿への御批判御指導を与えて下さることを願いたい。

北海道高等学校の養護・訓練

道視研 S57 No37

北海道高等盲学校 養護・訓練委員会 鈴木重男

1. 北海道高等盲学校の養護・訓練の指導内容

(1) コミュニケーション

ア 弱視生対象の漢字の能力別指導

イ 普通文字の指導

(ア) 点字を使用しているが残存視力を活用出来る生徒。

(イ) 先天・早期失明生徒。

(ウ) 中途失明生徒。

ウ オブタコン指導

現在学校に配備されていないので盲人能力開発センターより期間借用して短期間指導している。

エ 点字の触読指導

(ア) 中途失明生徒

(イ) 眼疾により中途失明が予想される生徒

(ウ) 触読速度が毎分100字以下の生徒の触読速度向上

オ オブチスコープ(CCTV)の使用

カ カナタイプ指導

キ 漢点字指導

(ア) 8点漢点字(川上式)

(イ) 6点漢点字(長谷川式)

(ウ) マイコン使用の点字-漢字ワードプロセッサの操作指導

(2) 空間拡大

ア 歩行訓練

(ア) オリエンテーション指導

(イ) 白杖操作指導

(ウ) 学校生活地域ファミリーアリゼーション

(エ) 単独帰省ルート訓練(寄宿舍)

(オ) ソニックガイド・モーワットセンサー指導

イ 立体物概念学習

(ア) ブラモデル製作による立体-平面の相互置換

(イ) ソニックガイド情報による環境シンボルの操作による環境作成

(3) 生活

ア 体力向上指導

イ 基本的日常生活行動指導

2. 点字触読指導の事例

(1) 指導の方法

鈴木重男が分類した5段階難易度別点字の継続的段階指導による。

※ 昭和49年道視研「点字は600分でマスターできる」

昭和56年全日盲点字特集

「個別的点字触読指導法」

ア 点字パターンの5段階分類

難易度1

あ、め、れ、ふ、う、い、に、く

難易度2

こ、か、お、よ、ひ、ぬ、の、と、な

難易度3

た、さ、し、み、わ、む、ね、も、つ

難易度4

ゆ、す、を、や、は、る、ま、そ、き

難易度5

へ、け、ん、ほ、ら、せ、ち、り、ろ、え、て

イ 指導の要点

(ア) 認知しやすい形態をもつ点字から指導する。

(イ) 学習者がフィードバックが可能なように指導のプログラムを作成する。

(ウ) プログラムの個別化。

(エ) 表打ちプレーヤーのみを使用する。

(オ) 常に向上するよう助言を与える。

(2) 指導対象

ア 横●孝信(男) S30 ●●生2●オ

イ S5● ベーチェット病を発症しS5●3 会社を休業し4月に本校に入学。

エ 名 〇 高校 〇 科卒業

オ 視力 右 不弁

左 0.05 明暗弁(発作により移動する)

カ 点字学習歴なし

(3) 指導経過

ア 借音点字パターン学習

4/27 ①点字触読学習方法の説明

②質問に答える

③難易度1のあ、め、れ、ふ、う、い、に、くの8文字を簡単にマスターさせる。

④上記の事により点字学習への不安をなくすと同時に意欲付けもする

4/30 難易度2 配当点字終了

5/10 難易度3 配当点字終了

5/14 難易度4 配当点字終了

5/17 難易度5 配当点字終了

※ 4/27~5/17までの実指導日数は11日間
4/27よりパーキンスプレーヤーを導入してパターンイメージの強化をはかる。

イ 各種前置符号学習 5/18~6/3(9日間)
教材-にっぼんどI(むぎ書房)問1

ウ 触読速度向上訓練の結果(継続中)

(ア) 小1程度の内容(学研 1年の漢字学習ノート)

6/4~6/15 触読速度の平均

225字/1分間

(イ) 高校程度1「勇気ある言葉」遠藤周作

a 6/16~7/23 35.2字/1分間

b 8/20~9/18 47.5字/1分間

c 9/20~10/18 59.6字/1分間

d 10/20~11/19 66.7字/1分間

e 11/20~12/24 66.1字/1分間

エ プラトー現象

学習訓練には上記ウのd、eのようなプラトー現象が必ずあらわれるものである。この時期に勇気づけ励ましてやることによって、それこそ飛躍的に触読の速度は、伸長すること過去のデータが物語っている。

(4) まとめ

本事例は、中途失明を予想される生徒への事例である。本指導方法は、鈴木が小中併置

の盲学校に勤務しているとき先天、早期失明児童の触読を効果的に指導するために開発したものである。当時の資料の多くは、残してきたので手元にある資料のみで先天盲児の指導経過をあげておこう。

ア 指導印象 札〇盲〇校 徳〇学級1年
岩〇さ〇り

イ 無意味綴りによって調べた触読可能文字

4/10 あ、ふ、め、う、い 5字

5字/46字 10.9%

5/6 は、お、る、さ、ぬ、い、あ、ひ、

こ、み、ふ、め、わ、な、よ、け、

む、に、を、う、く、か 22字

22字/46字 47.8%

5/14 は、お、る、さ、ぬ、い、あ、ひ、

り、れ、こ、と、ふ、め、わ、な、

む、に、を、ね、う、く、か 23字

23字/46字 50%

6/9 は、お、る、つ、や、さ、ろ、ま、

ぬ、し、え、の、い、あ、ひ、り、

れ、こ、み、と、た、ら、ふ、め、

わ、な、ん、よ、け、む、す、に、

を、ね、う、も、き、へ、く、か

40字/46字 87%

上記の他 濁音のず、べ、ど、ば、

ざ、ぶ、ぎ、づが触読できた。

3. 道内各盲学校の高等部としての役割を

道内各盲学校の中学部で指導された内容を、その生徒に最大限発揮出来るようにさせるのが本校の置かれた立場であり、小・中・高一貫した指導でないかと考える。そのためにも児童、生徒個人個人の指導内容と結果を記したファイルも必要ではないだろうか。この資料交換によって本校は、高等部としての役割をはたせるものと信じます。

S59.8現在

たかつか 110L/m たちばな 150L/m
 ざさはら 80L/m

普1 青山 普2 立花 普3 高つか 専1 ささ原 点字習得状況 (s59.2.9)

鈴木重男

1. 青山 指導開始 s58.11/10~

11/15 あ め れ よ う い に く こ
 か り よ ひ め の と な た
 さ

上記19文字指導中..

触読可能 14文字 74%

12/5 あ め れ よ う い に く こ
 か お よ ひ め の と な た
 さ し み わ ひ め も つ ゆ
 ず も や は る ま も き へ
 けん

上記38文字指導中

触読可能 31文字 82%

2. 立花 指導開始 s58.12/14~

12/14 11文字

12/15 23文字

12/16 29文字

12/15 触読可能 23文字 100%

12/9 清音46文字の定常強化の指導中

12/22

濁音・半濁音・促音・長音終了

s59 1/28 イソップ童話

1分間触読字数 約10字

2/8 19L/m (5days \bar{x})

3. 高つか 指導開始 s58.12/1~

12/5 あ め れ よ う い に く こ
 か お よ ひ

上記13文字指導中

触読可能 13文字 100%

12/9 あ め れ よ う い に く こ
 か お よ ひ め の と な た
 さ し み わ ひ め も つ

上記26文字指導 (26/46文字)

12/16 清音46文字指導終了

触読可能 44文字 96%

濁音46文字の定常強化を指導開始。

12/22

長音・濁音終了

s59 1/28 「勇気ある童話」

1分間触読字数 35字 (5日間平均)

2/9 46L/m (5days \bar{x})

4. ささ原 指導開始 s58.12/26~ 当時 清音 40/46字触読可能

冬休み中：清音・濁・半濁・長・促・よう音等終了

s59 1/28 「日本昔ばなし」 1分間触読字数 18字 (5日間の平均)

2/9 29L/m (5days \bar{x})